

公開講座活動報告

法人・団体名 静岡県母性衛生学会

テーマ 性と柔 ～ジェンダー（性差）とスポーツを考える～

講師 溝口紀子氏

開催年月日 平成27年7月19日 午後1時30分～3時

会場 グランシップ（静岡市）

講演概要

バルセロナ五輪女子柔道銀メダリストで、現、静岡文化芸術大学准教授そして県教育委員を務めている溝口紀子氏に、スポーツの世界における性差の問題について講演していただいた。

1. 出産と育児：自らの経験を通して

溝口氏は五輪終了後大学院に進学、国際文化政策に関して研鑽を積まれる中、結婚そして妊娠・出産を経験。妊娠高血圧症候群のため帝王切開による早産となったが、その経験のなかで、勤労妊婦の大変さ、妊娠から育児を通して家族の協力の重要性、そして、母乳分泌が不良で苦労した経験をもとに、完全母乳哺育に必ずしもこだわる必要がないことを強調された。

2. スポーツの世界における性差

スポーツ（アスリート）の世界では性差が存在する。男性・女性、それぞれにスポーツ協会が設立されているが、一部の競技、例えばテニス協会においては男女間に優劣の差はないが、多くの競技においては依然として性差が存在している。サッカー競技においても然り、柔道界においても然りである。柔道界では帯の色調を区別することで男女間に差をつけるなど、女性に対する差別が存在してきた。そのなかで、数年前に全柔連不祥事問題が生じたのは記憶に新しいところである。女子柔道強化選手に対するセクハラ問題や暴力問題であるが、告発によってその状況が明らかとなり、大きな社会問題に発展した。最終的に会長辞任にまで展開したが、この背景には、問題に対する自浄能力の低さが存在しており、これがきっかけで全柔連理事会に外部委員とともに女性理事が登用されるに至った次第である。男女参画が叫ばれる中、依然として男性のムラ社会が形成されている日本のスポーツ界には今後さらなる改革が求められている。

